

平成23年度

事業報告書

〈目 次〉

1	学校法人の概要	1～7
	(1) 建学の精神・教育目標	1
	(2) 学校法人の沿革	1～3
	① 設立年月日	1
	② 学校開校年度	1
	③ 学園の沿革	2～3
	④ 学園の組織表	3
	(3) 設置する学校・施設の位置	4
	(4) 学校・学科の学生数の状況	4～5
	① 入学定員・収容定員・現員数	4
	ア ヤマザキ学園大学	4
	イ ヤマザキ動物看護短期大学	4
	ウ ヤマザキ動物専門学校	4
	② 平成23年度中の入試状況（平成24年度入試）	5
	ア ヤマザキ学園大学	5
	イ ヤマザキ動物専門学校	5
	(5) 役員（理事・監事）の概要	5～6
	① 理事長・学長・校長の異動	5
	② 理事の異動	5
	③ 監事の異動	5
	④ 定員数・現員数・氏名等	5～6
	ア 理事	5
	イ 監事	6
	(6) 評議員の概要	6
	定員数・現員数等	6
	(7) 教職員の概要	6
	学校別専任・兼任教職員数	6
	(8) 教職員男女比率	7
2	事業の概要	7～12
	(1) 当該年度の主な事業の概要	7
	① 主な事業	7
	② 主な事業の進捗状況	7
	(2) 教育研究の概要	7～12
	① ヤマザキ学園大学	7～10
	ア 教育研究	7～8
	イ 学生支援	8

a	就職支援	8
b	奨学金の充実	8
c	被災学生緊急支援	8
ウ	学外研修・国際交流	8～9
エ	社会貢献・地域連携活動	9～10
オ	学生募集	10
②	ヤマザキ動物看護短期大学	10～11
ア	教育研究	10
イ	学生支援	10～11
ウ	学外研修・国際交流	11
エ	社会貢献・地域連携活動	11
③	ヤマザキ動物看護専門学校	11～12
ア	教育研究	11
イ	学生支援	11～12
ウ	学外研修・国際交流	12
エ	社会貢献・地域連携活動	12
オ	学生募集	12
④	事務組織の改編	12
⑤	規程の見直し	12
3	財務の概要と経年変化	13～19
(1)	決算の概要	13～14
①	募金事業の推進	13
②	主な施設設備の整備事業	13
③	収支計算書の概要	13
ア	資金収支計算書	13
イ	消費収支計算書	13
④	貸借対照表の概要	14
(2)	財務状況の推移（経年比較）	14～18
①	収支計算書	14～17
ア	資金収支計算書	14～15
イ	消費収支計算書	16～17
②	貸借対照表	18
(3)	主な財務比率比較	19
(4)	借入金の状況	19

1 学校法人の概要

(1) 建学の精神・教育目標

昭和42年(1967年)の創立以来、創始者山崎良壽が掲げた「生命の畏敬」と「職業人としての自立」をヤマザキ学園の建学の精神とし、「生命(いのち)を生きる」を教育理念としています。その中に、「生命への尊敬の心を持つ」、「動物愛護をとおして自分と社会を見つめる」、「礼節や思いやりを大切にする」以上の3つの考え方が含まれています。生きとし生けるものがともに尊重し、助け合い、それぞれの生命を輝かせて生きるという動物への深い愛情、人と動物の懸け橋になる人材育成を目標としています。動物愛護の精神に基づき、動物を心から理解し愛する卒業生が、社会で優れた指導者となり、調和のとれた平和な社会の建設に寄与することを理想としています。

また、本学は人間とコンパニオンアニマルの関係における新しい学術分野を確立し、理想的な教育と研究の場を提供することを目標としています。

(2) 学校法人の沿革

学校法人ヤマザキ学園は、我国で初めて、動物に関する学問を研究し、動物の看護や飼育の正しい技術を教育するための機関として、昭和42年(1967年)に歩み始めました。平成6年(1994年)にはアニマル・ヘルス・テクニシャン(A TH)の専門性が広く社会に認められ、国内では唯一の動物管理学科を設けた3年制専修学校が認可されました。平成16年(2004年)4月、創始者山崎良壽の夢を実現させ、「生命を生きる」という教育理念を継承して、新たに「ヤマザキ動物看護短期大学」が開学しました。平成21年(2009年3月)、より高度な専門知識を持つ人材の育成を目指し四年制大学の設置認可申請書を文部科学省に提出し、平成21年10月文部科学大臣から「ヤマザキ学園大学」が設置認可されました。

① 設立年月日

名 称 学校法人 ヤマザキ学園

法人成立の年月日 平成6年6月27日

② 学校開校年度

ヤマザキ動物専門学校 平成7年度開校

動物管理学科(現在は動物看護・美容学科、動物看護学科、
動物美容学科の構成)

ヤマザキ動物看護短期大学 平成16年度開学

動物看護学科

ヤマザキ学園大学 平成22年度開学

動物看護学部動物看護学科

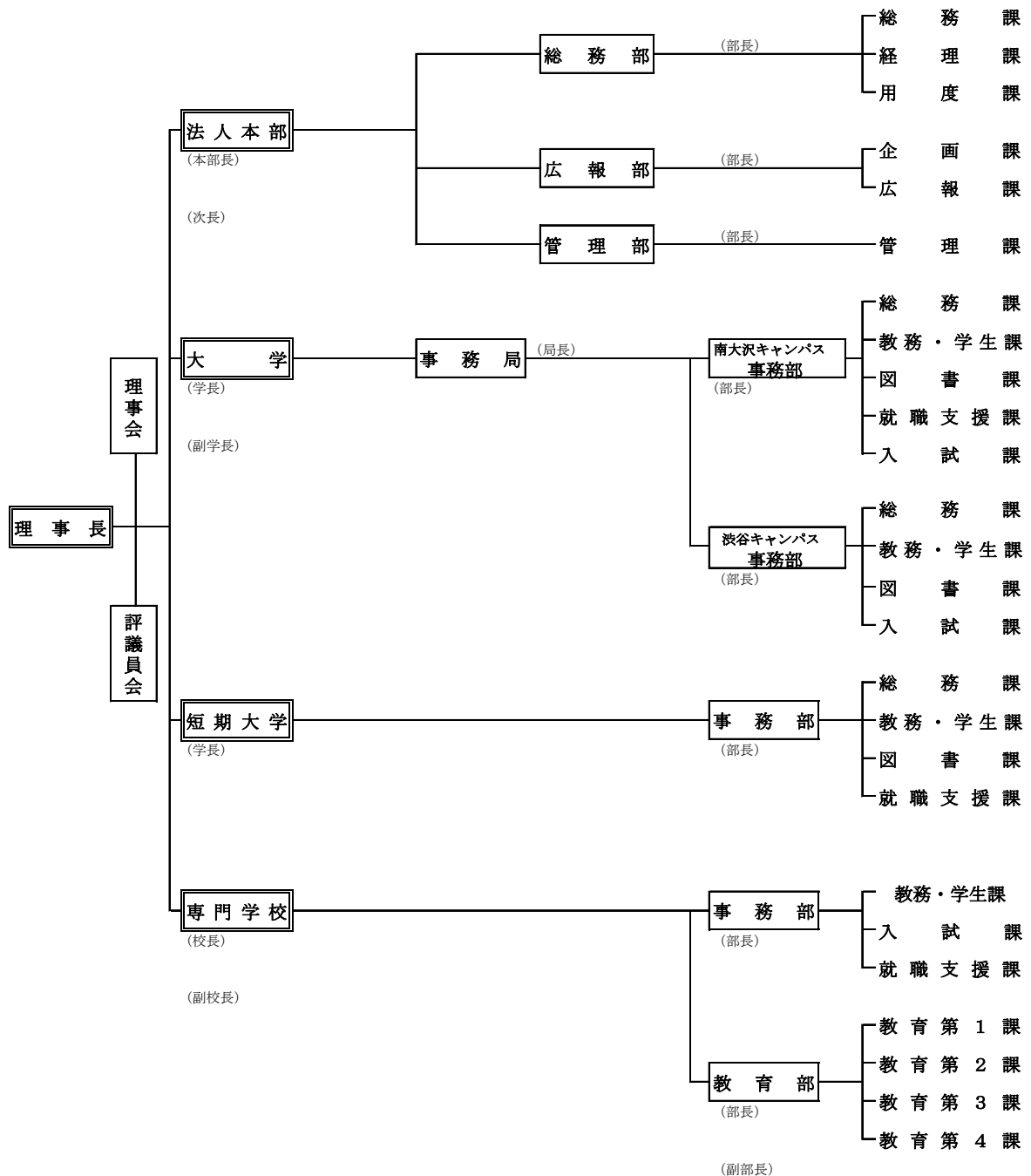
③ 学園の沿革

昭和42年12月	創始者山崎良壽、渋谷区神泉町に世界初のイヌのスペシャリスト養成機関を創立
平成2年10月	創始者山崎良壽初代学長死去
平成3年2月	山崎薫第2代学長就任
平成6年6月	東京都知事認可により学校法人ヤマザキ学園設立 専修学校日本動物学院設置、山崎薫理事長就任
平成8年10月	創立30周年を機に、専門学校実習専用の神泉校舎新設
平成12年3月	渋谷区松濤に7階建専門学校本校舎新設
平成12年4月	専修学校日本動物学院を専門学校日本動物学院に校名変更
平成12年4月	専門学校日本動物学院の入学定員を320人、収容定員を960人に増
平成12年9月	群馬県富岡市にドッグトレーニング研修施設「グリーンフィールドズ」を設置
平成12年10月	渋谷区松濤にドッグトレーニング研修施設「レインボーフィールドズ」を設置
平成12年10月	富ヶ谷校舎に「日本動物図書館」を開設
平成15年11月	文部科学大臣より、短期大学設置のため学校法人組織変更認可
平成15年11月	文部科学大臣より、ヤマザキ動物看護短期大学設置認可
平成16年4月	ヤマザキ動物看護短期大学開学 動物看護学科（3年制入学定員100人）を設置
平成16年4月	専門学校日本動物学院をヤマザキ動物専門学校に校名変更
平成17年4月	渋谷区松濤に全天候ドッグトレーニング研修施設「レインボーフィールドズ」を設置
平成19年3月	ヤマザキ動物看護短期大学第1回卒業式
平成19年4月	ヤマザキ動物看護短期大学専攻科開設
平成19年4月	ヤマザキ動物看護短期大学の入学定員を116名、収容定員を348名に定員増
平成21年3月	ヤマザキ学園大学設置のための認可申請を文部科学大臣に提出 ヤマザキ動物専門学校動物管理学科入学定員を変更（160名）、動物看護学科（2年制、入学定員40名）を新設。
平成21年10月	文部科学大臣よりヤマザキ学園大学設置認可

- 平成22年 3月 南大沢 2号館完成
- 平成22年 4月 ヤマザキ学園大学開学
ヤマザキ動物専門学校動物看護・美容学科（3年制、入学定員120名）及び動物美容学科（2年制、入学定員40名）を新設
- 平成22年10月 創始者山崎良壽先生逝去20周年偲ぶ会举行
- 平成24年 2月 南大沢 2号館隣地取得

④ 学園の組織表（平成23年5月現在）

平成23年度 ヤマザキ学園運営組織



(3) 設置する学校・施設の位置

① 本部及び校舎の位置

法人所在地	東京都渋谷区松濤2丁目3番10号
ヤマザキ学園大学	
南大沢キャンパス	東京都八王子市南大沢4丁目7番2号
渋谷1号館	東京都渋谷区松濤2丁目3番10号 (ヤマザキ動物専門学校と一部共用)
渋谷2号館	東京都渋谷区富ヶ谷2丁目25番1号
ヤマザキ動物看護短期大学	東京都八王子市南大沢4丁目7番2号
ヤマザキ動物専門学校	
本校舎	東京都渋谷区松濤2丁目16番5号
松濤校舎	東京都渋谷区松濤2丁目3番10号 (ヤマザキ学園大学渋谷1号館の一部を共用)
神泉校舎	東京都渋谷区神泉町10丁目3番

(4) 学校・学科の学生数の状況

① 入学定員・収容定員・現員数 (平成23年5月1日現在)

ア ヤマザキ学園大学

学 部	入学定員	収容定員	学生数	
			入学者	在籍者
動物看護学部 動物看護学科	180	(720)	184	349

イ ヤマザキ動物看護短期大学 (動物看護学科は募集停止)

学 科	入学定員	収容定員	学生数	
			入学者	在籍者
動物看護学科	(116)	(348)	0	120
専攻科動物看護学専攻	20	20	13	13
計	20	20	13	133

ウ ヤマザキ動物専門学校 (動物管理学科は募集停止)

学 校 名	入学定員	収容定員	学生数	
			入学者	在籍者
動物看護・美容学科	120	(360)	95	195
動物看護学科	40	80	5	29
動物美容学科	40	80	4	17
動物管理学科	(160)	(480)	0	112
計	200	(520)	104	353

② 平成23年度中の学生・生徒の入試状況（平成24年度入試）

ア ヤマザキ学園大学

学部・学科名	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
動物看護学部 動物看護学科	180	278	265	255	200

イ ヤマザキ動物専門学校

学科名	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
動物看護・美容学科	120	106	105	105	101
動物看護学科	40	27	27	27	26
動物美容学科	40	6	6	6	6
計	200	139	138	138	133

(5) 役員（理事・監事）の概要

① 理事長・学長・校長等の異動

異動なし。

② 理事の異動

異動なし。

③ 監事の異動

異動なし。

④ 定員数・現員数・氏名等（平成23年4月1現在）

ア 理事

選任区分	区分	氏名	定員	現員	常勤・ 非常勤別	摘要
寄附行為 第6条第1項第1号 (学長・校長)	学長 校長	中村經紀 関正勝	2名	2名	常勤 常勤	平成11年9月10日就任 平成22年7月1日就任
寄附行為 第6条第1項第2号 (評議員のうちから 評議員会が選任)	理事 理事	山北宣久 堀江昭雄	2名	2名	非常勤 非常勤	平成11年9月10日就任 平成20年4月1日就任
寄附行為 第6条第1項第3号 (理事会が選任)	理事 理事 理事 理事 理事	山崎 薫 山崎 緑 吉見充徳 古谷久子 齊藤公紀	5名	5名	常勤 常勤 非常勤 非常勤 非常勤	平成6年6月27日就任 平成6年6月27日就任 平成6年6月27日就任 平成6年6月27日就任 平成15年11月27日就任
合計			9名	9名		

イ 監事

選任区分	区分	氏名	定員	現員	常勤・ 非常勤別	摘 要
寄附行為第7条 (理事会が選出した候補 者から評議員会の同意 を得て理事長が選任)	監事 監事	大坪俊勝 玉木祥夫	2名	2名	非常勤 非常勤	平成18年7月1日就任 平成20年4月1日就任

(6) 評議員の概要

定員数・現員数等 (平成23年 4月1日現在)

選任区分	定員	現員
寄附行為 第23条第1項第1号 (法人の教職員)	1名	1名
寄附行為 第23条第1項第2号 (卒業生)	9名	9名
寄附行為 第22条第1項第3号 (理事会において選任した者)	9名	9名
合計	19名	19名

(7) 教職員の概要

学校別専任・兼任教職員数 (平成23年4月1日現在)

(単位：人)

区 分	専任教員	兼任教員	職 員	臨時職員等	合 計
ヤマザキ学園大学動物 看護学部動物看護学科	38 (教育 助手含む)	13	23	2	76
ヤマザキ動物看護短期 大学 動物看護学科	5 (教育助手 含む)	10	3	1	19
ヤマザキ動物看護短期 大学 専攻科動物看護 学専攻	0	1	0	0	1
ヤマザキ動物専門学校	27	40	11	1	79
法人本部	0	0	28	0	28
計	70	64	65	4	203

(8) 教職員男女比率

区 分	男性	女性	合 計
専任教職員	39	96	135
非常勤教員	30	38	68
合 計	69	134	203
比 率	34%	66%	100%

2 事業の概要

(1) 当該年度の主な事業の概要

① 主な事業

今年度は、ヤマザキ学園大学開学2年目にあたり、南大沢キャンパスにおいて本格的に教育が開始され、ヤマザキ学園100年の計を実現するため着実に歩み始めました。前年度末の未曾有の災害により社会情勢が先の見えない状況にあっても、教育研究野の質的向上への要求に応えるために、全学園を挙げて取り組みました。こうした状況をふまえ以下に示す諸事業を展開しました。

② 主な事業の進捗状況

動物看護の分野における高度な知識・技術を修得するとともに他の専門職と連携する能力を身につけ、指導的役割を果たすことができる人材を育成することを目的として、ヤマザキ学園大学動物看護学部動物看護学科開学2年目の教育研究を展開しました。

(2) 教育研究の概要

① ヤマザキ学園大学

ア 教育研究

ヤマザキ学園大学（以下「大学」という。）は、動物愛護の精神に則り、日本ではじめて動物看護の大学として開学し、「生命の畏敬」と「職業人としての自立」という建学の精神に基づき、「生命（いのち）を生きる」を教育理念として、動物看護にかかわる教育研究を行い、専門的応用能力を有する動物看護師を養成することを目的としております。

大学における中心的な研究分野の推進に関しては、完成年度までに段階的に実施していくこととしており、平成22年度に引き続き、①動物臨床看護の実践的能力向上に関する研究、②コンパニオンアニマルにおける食の安全と栄養学的研究、③コンパニオンアニマルに関する遺伝性疾患予防に関する研究を中心に推進いたしました。

また、紀要『ヤマザキ学園大学・ヤマザキ動物看護短期大学雑誌』により、教育研究の分野での成果の発表を行っております。

教育面においては、平成24年度から3年次生のコース別教育が

開始されることに伴い、完成年度の平成25年度に開講される「卒業論文」の指導体制とも関連して、準備を進めてまいりました。また、平成24年度から開講される「動物病院実習」及び「インターンシップ」を円滑に実施するため、動物病院実習・インターンシップ実行委員会において検討を開始いたしました。

イ 学生支援

a 就職支援

単に卒業後の進路希望を実現するためだけでなく、学生一人ひとりのキャリア形成が大切であると捉え、正課の内外を問わず、学生生活全般に渡るきめ細かい支援を行えるよう、学年主任、クラスアドバイザー制度を採用し、学生の悩みや問題に対して、助言・指導を行うことを通じて、学生一人ひとりに合ったキャリア形成がなされる体制を整えております。

また、1年次から、就職意識調査を実施し、就職セミナーを実施するなど、入学時から就職支援プログラムが行われ、学生のキャリア意識の形成・向上を図っております。

b 奨学金

公的奨学金制度である日本学生支援機構、地方自治体などの奨学金に加え、向上心に富み、学力・技能に優れ、将来の動物看護に関する分野の指導者または研究者をめざす学生の人材育成を目的とする本学独自の返済不要奨学金である山崎良壽記念奨学金制度があります。

また、日本政策金融公庫の教育ローンの他、株式会社ジャックスとの提携教育ローンの利用も可能です。

c 被災学生緊急支援

東日本大震災の被害を受け、修学困難な学生を支援するため、被災の状況に応じて、入学手続き時に支給する奨学金制度を制定し、併せて、女子寮の無償提供を行うこといたしました。

ウ 学外研修・国際交流

正課の授業のほかに、教室内やテキスト等の書物などだけでは学べない生きた体験ができるよう学外研修制度の充実につとめており、国内・国外の研修を行っております。

平成23年度においては、本学が大学設立前の昭和46年から長きに渡って行われ、実績がある海外研修については、東日本大震災の未曾有の災害等に鑑み、海外研修を中止いたしました。が、学生が国際感覚を身につけ研修先でのさまざまな交流ができるよう、次年度以降の研修制度を行う準備を進めているところです。

国内研修については、国内最大級のドックリゾートWOO F、富士

サファリパークへの研修で、ヒトと犬との暮らしのシミュレーション体験学習や、獣医師による講演、施設見学を行った山梨県研修旅行と、循環型畜産を実践する八雲牧場(北海道)にて、牧場におけるヒトと牛の生活を体験する研修を実施いたしました。

エ 社会貢献・地域連携活動

地域に開かれた大学を目指し、広く地域からの要請等に答えるだけでなく、本学のボランティアクラブによる活動等、次のように幅広い社会・地域貢献につとめた活動を行いました。

- 1) 動物愛護週間中央行事実行委員会主催「動物愛護フェスティバル」に学園として参加し、教職員と学生によるペットの健康ワンポイントアドバイスを実施しました。
- 2) 八王子地区の大学・短大・高等学校や企業との協同で実施している八王子学園都市大学「いちょう塾」に、本学教員を派遣し、講座を提供いたしました。
 - 講座名：「世界のイヌ品種（犬種）」
派遣講師：福山貴昭非常勤講師
 - 講座名：「知っておきたい！動物由来感染症 ～ヒトと動物がともにくらすために…～」
派遣講師：鈴木友子助教
 - 講座名：「ペットロス論」派遣講師：山川伊津子助教
 - 講座名：「イヌの行動学 ～一から知ろうイヌの行動～」
派遣講師：堀井隆行助教
 - 講座名：「動物文化史 ～イヌ・ネコ・ウマの文化～」
派遣講師：福山貴昭非常勤講師
早田由貴子非常勤講師
- 3) ヤマザキ学園大学とヤマザキ動物看護短期大学の主催による絆祭にて、公開講座「ヒトがイヌと歩くということ」を開催し、多くの愛犬家がイヌと参加されました。
- 4) 八王子市が市民団体と一緒に取り組んでいる「子ども体験塾」に毎年協力しており、平成23年度は本学主催となり「イヌとなかよくなろう！」をテーマに開催し、子どもたちにイヌとのふれあい体験だけでなく、本学南大沢キャンパスにて動物看護師の仕事体験するものを提供いたしました。
- 5) 八王子地域の特性を活かし、大学・市民・経済団体・企業・行政などが連携・協働し、大学・学生・市民の皆さんにとってよりいっそう魅力ある学園都市をめざして設立された大学コンソーシアム八王子との連携による、地域各種活動にも積極的に取り組み、「学生天国」、「八王子まつり」等に、学生が参加し、地域との交流を図りました。

- 6) ボランティアクラブによる各種活動が行われおりますが、平成23年度は、東日本大震災の動物救援活動として、被災地に送るペットフード等の支援物資の仕分け作業を実施し、併せて、チャリティ版画展の開催、さらに、福島原発事故被災動物救援の為に、山川伊津子助教を中心に特別編成チーム「福島タスクフォース」を立ち上げ活動を継続しております。
- 7) 本学主催による「こどもパートナー」認証講座を開催し、学生124名が参加しました。この資格を取得した学生が、さまざまな機会にボランティアとして活動することが期待されます。
- 8) 「第62回全関東八王子夢街道駅伝競走大会」に本学駅伝チーム5名が大学男子の部に参加し、無事完走を果たし健闘しました。

オ 学生募集

昨年度に引き続き、これまでの学生募集活動の検証を踏まえて、教職員が連携して取り組みを強化しました。

本学の特色のある教育の目標を効果的に強調できるよう、高校ガイダンスやオープンキャンパスをはじめとして直接に高校生に接する機会を増やし、マンツーマンを重視した広報活動を展開しました。

② ヤマザキ動物看護短期大学

ア 教育研究

本学の特徴として卒業までの実習科目の履修が多くなっています。動物看護の職業人として、卒業後すぐ動物関連の職場で活躍できるように、1年次から実習科目の履修が組まれるなどの特徴があり、併せて、オムニバス授業や実習においては、複数のスタッフにより学生に対する強力なサポート体制を敷いて、より効果的な教育が行われるようにつとめておりました。

そして、すべての学生が卒業することにより、4年生大学への移行に伴い、短期大学としての役目を終えることとしました。

また、紀要『ヤマザキ学園大学・ヤマザキ動物看護短期大学雑誌』により、教育研究の分野での成果の発表を行っております。

イ 学生支援

本学は独自の制度として学年主任、クラスアドバイザー、アシスタントアドバイザー制を導入し、学生の悩みや問題に対して、専門カウンセラーが対応するほか、アドバイザーは、学生生活全般に涉って助言・指導を行います。

学生達と年齢の近い教員をアシスタントアドバイザーに配置するなどして、1人暮らしの学生達が気軽に相談できる体制を組んでおります。

短期大学の就職活動には、創立以来40数年にわたる専門学校の全国におよぶ就職ネットワークを最大限に活用し、高い就職率を維

持ってきております。

また、就職支援課は、学生が社会人として自立できる職業に従事するために、さまざまな相談に応じ、さらに、各学年において「就職セミナー」を開催しており、キャリアを積んだ教員が、学生1人ひとりの希望に応じた指導を個人指導にあたっております。

その結果、平成23年度は、就職希望者に対して96%の就職率となっています。

ウ 学外研修・国際交流

正課の授業のほかに、教室内やテキスト等の書物などだけでは学べない生きた体験できるよう学外研修制度の充実につとめており、国内・国外の研修を大学と合同で行っております。

平成23年度においては、学園の伝統行事として昭和46年以来、アメリカ、オーストラリアなどで行ってこま海外研修については、東日本大震災の未曾有の災害等に鑑み、海外研修を中止することとしました。

一方、国内研修については、国内最大級のドックリゾートWOODF、富士サファリパークへの研修で、ヒトと犬との暮らしのシミュレーション体験学習や、獣医師による講演、施設見学を行った山梨県研修旅行と、循環型畜産を実践する八雲牧場(北海道)にて、牧場におけるヒトと牛の生活を体験する研修を実施いたしました。

エ 社会貢献・地域連携活動

「だれもがいつでも多様に学び豊かな文化を育むまち」を実現するため、八王子市と八王子地域23大学・短期大学・高等専門学校、企業及び市民の方との協働により、市民が意欲をもって学ぶことができる機会の場の提供を目的として、2004年9月に設立された市民のための市民大学ある“八王子学園都市大学「いちよう塾」”に大学と合同で本学教員を派遣し、講座を提供いたしました。

③ ヤマザキ動物専門学校

ア 教育研究

校内で行われている授業のほかに、社会の一線で活躍している文化人や専門家によるセミナー授業、獣医大学や動物園でのエクスターン授業、文化祭やスポーツデーなどの学校行事をとおして、実際の現場での即戦力として活躍できる「総合力」を育成しています。

イ 学生支援

本学では、就職内定までのプロセスとして、1年生から就職活動に備えたカリキュラムを準備しています。また、インターン研修では併設の動物病院とグルーミングサロンを実際に体験し、3年生では実社会における研修を実施しています。その結果本年度は、就職

希望者の内 95% の高い就職率を実現しました。

ウ 学外研修・国際交流

東日本大震災の未曾有の災害等に鑑み、本年度の海外研修旅行は中止としました。国内研修は例年のとおり実施しました。

エ 社会貢献・地域連携活動

各動物愛護団体からの要請に基づき、東日本大震災における被災動物の救済活動を多面的に実施いたしました。特に、全国からの支援物資の仕分け作業については、本校3年生、2年生及びクラスアドバイザー、アシスタントが交替で任にあたりました。

また、動物愛護週間中央行事実行委員会が主催する「動物愛護フェスティバル」に学園として参加しました。上野恩賜公園において行われた屋外行事には、専門学校のグルーミングの先生による実演も行われ学園のブースには多くの方が来場されました。動物看護の地位向上や動物福祉活動の一環として松涛校舎においてイヌやネコに対して新しい飼い主を探す「ペットハッピーホームプログラム」に参加しています。

オ 学生募集

本校をこれまで以上に知っていただくために、年間を通して様々なイベントを開催したことなど、四年制大学への進学志向のなかで本校の特色をアピールしてきました。前年度より30名近く入学生数が増加しました。今年度から実施いたしました奨学生制度や高等学校既卒者の入学希望者増が、数字押し上げの主な要因です。但し、昨今の18歳人口が減少している状況下では、今後ますます入学者の確保が難しくなってきました。本校としては大学と連携し募集活動をおこなうことにより専門学校のイメージアップを図ってきました。姉妹校との合同イベント通じ高校生に接する機会を増やし、マンツーマンの広報を重視しました。あわせて推薦指定校の実績校を中心に、一層の信頼関係を確立してまいりました。

④ 事務組織の改編

事務組織の効率化を目指して、教務課及び学生課を統合し教務・学生課を設置するなどの事務組織の改編を行いました。

⑤ 規程の見直し

教育目標達成へ向け、改組の一環として、各規程を見直して実務的な変更を行いました。

3 財務の概要と経年変化

(1) 決算の概要

平成23年度決算は、四年制大学設置に関わる事業が2年目ということもあり、開学初年度と比較して事業に掛かる経費は減少しております。また、一般の経費は削減を図りながら予算執行を行いました。収入面におきましては、学生数の増加に伴い大学の学生生徒等納付金収入が増加しております。大学の学生募集につきましては、入学定員を確保いたしました。今後の大学の年次進行に伴い収支は安定してくるものと予想されます。また、収入の安定確保の一環として退学者の低減を図ってまいりましたが、今年度の退学率は大学3.4%、専門学校2.5%となりました。

① 募金事業の推進

教育研究環境のより一層の充実を図るため募金事業を行いました。学園関係者各位より約1千4百万円の浄財をご寄付いただきました。感謝を申し上げます。

② 主たる施設設備の整備事業

主な整備事業は次のとおりです。

- ア 大学の充実を図るに上り管理棟及びマルチフィールドを設置するための作業に入りました。
- イ 南大沢キャンパス2号館にドラフトチャンバー等校具、教具、備品の整備を行いました。
- ウ 南大沢キャンパス・渋谷校舎において地震被害補修工事を行いました。
- エ 南大沢キャンパス・渋谷キャンパスにおいて、省エネルギーを目的として校舎の窓ガラスに遮熱フィルム貼付工事を行いました。

③ 収支計算書の概要

ア 資金収支計算書

平成23年度の資金収支計算書は、資金収入の合計が前年度繰越支払資金20億2千万円を含め39億1千万円となり、資金支出の合計が22億2千万円(前年度比6億5千万円の増)で、次年度繰越支払資金が16億9千万円となりました。特に校地取得のための支出がありました。

イ 消費収支計算書

平成23年度の消費収支計算書は、帰属収入の合計が13億7千万円(前年度比3千万円の減)となり、基本金を4億円組み入れたことにより消費収入は9億7千万円となりました。消費支出は合計が14億3千万円(前年度比6千万円減)で、今年度は4億6千万円(前年度比1億2千万円の増)の消費支出の超過となりました。本年度における消費支出の超過の要因は、校地取得による基本金の組み入れの増加と減価償却費の増加によります。

④ 貸借対照表の概要

平成23年度の貸借対照表は、資産総額が114億8千万円となり

ました。前年度と比較すると5億円増加しています。一方負債総額は、13億1千万円で、前年度より5億5千万円増加しています。

(2) 財務状況の推移 (経年比較)

① 収支計算書

ア 資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部	19年度	20年度	21年度	22年度	本年度
学生生徒等納付金収入	1,963,893	1,746,492	1,397,603	1,356,498	1,289,258
手数料収入	13,417	10,233	11,627	10,902	12,960
寄付金収入	3,610	2,480	1,770	13,410	14,170
補助金収入	0	27,168	28,466	16,932	52,242
資産運用収入	4,212	11,595	9,655	6,127	5,034
資産売却収入	501,422	600,000	0	0	0
事業収入	0	0	0	0	0
雑収入	1,281	607	1,414	914	1,455
借入金等収入	0	0	0	0	500,000
前受金収入	970,615	754,586	730,075	662,155	682,514
その他の収入	101,868	869	901,038	405	2,689
資金収入調整勘定	△1,093,235	△970,615	△755,946	△731,899	△665,441
前年度繰越支払資金	1,625,591	1,457,335	2,324,466	2,244,186	2,015,079
収入の部合計	4,092,674	3,640,750	4,650,168	3,579,630	3,909,960

支出の部	19年度	20年度	21年度	22年度	本年度
人件費支出	624,694	610,342	620,390	633,479	661,412
教育研究経費支出	306,264	232,765	270,430	287,540	277,329
管理経費支出	381,326	327,112	320,129	376,969	287,544
借入金等利息支出	3,307	1,149	0	0	307
借入金等返済支出	54,000	112,600	0	0	0
施設関係支出	754,675	19,012	1,158,607	25,484	988,348
設備関係支出	10,474	8,924	159,370	103,274	23,350
資産運用支出	500,000	0	0	0	0
その他の支出	50,186	50,292	50,628	175,256	36,589
資金支出調整勘定	△49,587	△45,912	△173,572	△37,451	△59,025
次年度繰越支払資金	1,457,335	2,324,466	2,244,186	2,015,079	1,694,106
支出の部合計	4,092,674	3,640,750	4,650,168	3,579,630	3,909,960

イ 消費収支計算書

(単位:千円)

収入の部	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	本年度
学生生徒等納付金	1,963,893	1,746,492	1,397,603	1,356,498	1,289,258
手数料	13,417	10,233	11,627	10,902	12,960
寄付金	3,610	10,884	1,770	15,546	14,571
補助金収入	0	27,168	28,466	16,932	52,242
資産運用収入	4,212	11,595	9,655	6,127	5,034
資産売却差額	242,916	170,943	0	0	0
事業収入	0	0	0	0	0
雑収入	1,281	607	1,414	914	1,530
帰属収入合計	2,229,329	1,977,922	1,450,535	1,406,919	1,375,595
基本金組入額合計	△1,151,592	△34,336	△282,327	△251,303	△406,553
消費収入の部合計	1,077,737	1,943,586	1,168,208	1,155,616	969,042

支出の部	19年度	20年度	21年度	22年度	本年度
人件費	622,304	615,561	625,629	641,271	671,152
教育研究経費	464,954	390,133	389,079	452,692	436,283
管理経費	392,768	337,387	331,219	392,190	318,403
借入金等利息	3,307	1,149	0	0	307
資産処分差額	0	2,620	4,016	0	0
徴収不能引当金繰入額	20,325	0	1,360	1,824	0
消費支出の部合計	1,503,658	1,346,850	1,351,303	1,487,977	1,426,145
当年度消費収支超過額	△425,921	596,736	△183,095	△332,361	△457,103
前年度繰越消費収支超過額	△149,325	△384,297	531,102	348,007	15,646
基本金取崩額	190,949	318,663	0	0	2,907
翌年度繰越消費収支超過額	△384,297	531,102	348,007	15,646	△438,550

② 貸借対照表

(単位:千円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	本年度
固定資産	9,287,052	8,722,974	9,009,630	8,957,985	9,778,555
流動資産	1,458,690	2,325,801	2,246,907	2,019,721	1,702,225
資産の部合計	10,745,742	11,048,775	11,256,537	10,977,706	11,480,780
固定負債	74,273	20,892	26,131	33,923	543,664
流動負債	1,096,290	821,633	924,924	719,360	763,243
負債の部合計	1,170,563	842,525	951,055	753,283	1,306,907
基本金の部合計	9,959,476	9,675,148	9,957,475	10,208,777	10,612,423
消費収支差額の部合計	△384,297	531,102	348,007	15,646	△438,550
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	10,745,742	11,048,775	11,256,537	10,977,706	11,480,780

(3) 主な財務比率比較

(単位：%)

比率名	算式	19年度	20年度	21年度	22年度	本年度
帰属収支 差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	32.6	31.9	6.8	-5.7	-3.7
消費収支 比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	139.5	69.3	115.7	128.8	147.2
学生生徒等 納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	88.1	88.3	96.4	96.4	93.7
人件費比 率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	27.9	31.1	43.1	45.6	48.8
教育研究 経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	20.9	19.7	26.8	32.2	31.7
管理経費 比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	17.6	17.1	22.8	27.9	23.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	133.1	283.1	242.9	280.8	223.0
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金※1}}$	12.2	8.3	9.2	7.4	12.8
自己資金 構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金※2}}$	89.1	92.4	91.6	93.1	88.6
基本金比 率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	90.8	100.0	98.8	99.9	95.5

※1 自己資金＝基本金＋消費収支差額

※2 総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額

(4) 借入金の状況

北陸銀行より5億円の借入をしました。